2022年度　新聞記事等一覧（5月分）

No.	掲載年月日	媒体名		記事（番組）表題	記事（番組）概要	記事（番組）関係者等	
1	5月1日	佐賀新聞LiVE	WEB	政府、科学技術立国の実現へ設置　１０兆円基金、４大学申請へ 国立大調査、２７校は「検討中」	政府が世界最高の研究水準を目指す大学を支援するために設けた10兆円規模の大学ファンド（基金）に関し、東京農工大学が申請する意向であることが紹介される。		
2	5月1日	茨城新聞	WEB	10兆円大学ファンド、筑波大は「検討中」 国立大調査	政府が世界最高の研究水準を目指す大学を支援するために設けた10兆円規模の大学ファンド（基金）に関し、東京農工大学が申請する意向であることが紹介される。		
3	5月1日	沖縄タイムスプラス	WEB	大学ファンドに4校が申請意向	政府が世界最高の研究水準を目指す大学を支援するために設けた10兆円規模の大学ファンド（基金）に関し、東京農工大学が申請する意向であることが紹介される。		
4	5月1日	ラブすぽ	WEB	微生物って、目に見えない生き物なの？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
5	5月1日	ラブすぽ	WEB	ウイルスを別にして地球上に存在する、大きく2つに分けられる微生物とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
6	5月2日	ラブすぽ	WEB	パンやお酒(アルコール)などをつくる酵母やカビとキノコって、微生物なの？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
7	5月3日	Rakuten Infoseek News	WEB	人間の体を「あるべき状態」に整える自然の“生体調整機能”とは	東京農工大学修士課程（環境保護学）を修了した宮崎良文さん（現 千葉大学環境健康フィールド科学センターグランドフェロー）の「自然が人間に与える驚きの効果とその仕組み」についてのインタビューが掲載される。	卒業生	宮崎良文 さん
8	5月3日	Rakuten Infoseek News	WEB	「一輪挿し」でも得られる自然の恩恵。大切なのは自分の心地よさ	東京農工大学修士課程（環境保護学）を修了した宮崎良文さん（現 千葉大学環境健康フィールド科学センターグランドフェロー）の「自然が人間に与える驚きの効果とその仕組み」についてのインタビューが掲載される。	卒業生	宮崎良文 さん
9	5月3日	ラブすぽ	WEB	私たちの病気の原因になるものの1つとして細菌と共によく知られている微生物の仲間とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
10	5月4日	ラブすぽ	WEB	微生物は目に見えない程とても小さいのに〝巨大生物〟と呼ばれる理由とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
11	5月4日	新潟日報	WEB	10兆円基金、新潟大「検討中」 4校申請へ、長岡技科大と上越教育大は「見送り」	政府が世界最高の研究水準を目指す大学を支援するために設けた10兆円規模の大学ファンド（基金）に関し、東京農工大学が申請する意向であることが紹介される。	農学研究院	
12	5月5日	ラブすぽ	WEB	原始の地球には酸素がほとんど無かった！地球に酸素を発生させた微生物とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
13	5月6日	ラブすぽ	WEB	なにが得で、微生物は小さくなったのか？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
14	5月6日	朝日新聞Reライフ.net	WEB	<連載> べんの博士のウンチ講座 第9回 作り、育て、出す　ウンチを出すには三つのカが必要です	辨野義己氏の略歴で「東京農工大学大学院獣医学専攻をへて理化学研究所へ」と紹介される。	卒業生	辨野義己 さん
15	5月6日	朝日新聞デジタル	WEB	仕事退職→日光に住み着いた博士課程ハンター　地元猟師も認める熱意	東京農工大学の稲垣亜希乃さんが日光に住み着いた博士課程在籍のハンターとして紹介される。	本学学生	稲垣亜希乃 さん
16	5月6日	静岡県警察本部ホームページ	WEB	交差点では確実に安全確認しましょう	東京農工大学のスマートモビリティ研究拠点が提供した映像資料が放映	工学研究院スマートモビリティ研究拠点	毛利宏 教授
17	5月7日	ラブすぽ	WEB	ふつうの生物が生きられないような場所でも微生物が存在する理由とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
18	5月7日	しんぶん赤旗	1面	環境ホルモン汚染（上） 多摩川上流で高濃度 浮かび上がるごみ処分場	多摩川で目に見えない汚染が続いていることが東京農工大学の研究チームの調査で明らかになったと紹介される。	農学研究院	高田秀重 教授
19	5月7日	しんぶん赤旗	13面	環境ホルモン汚染（上） 異常な濃度分布 下水処理場付近で急上昇	東京都内を流れる川の水に含まれる環境ホルモンの問題に早くから取り組んできた高田教授たちが、隅田川と多摩川の環境ホルモンの汚染状況を20年ぶりに調査したと紹介される。	農学研究院	高田秀重 教授
20	5月8日	しんぶん赤旗	12面	環境ホルモン汚染（中） 処分場で発生か	東京農工大学の高田秀重教授たちの研究チームの調査で、長年の謎だった多摩川の水に含まれるビスフェノールAの排出源が主に上流にある二つの下水処理場であることが明らかになったと紹介される。	農学研究院	高田秀重 教授
21	5月8日	ラブすぽ	WEB	地球上のどこにでも存在する微生物。ここ十数年間で発見された微生物の数とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
22	5月9日	ラブすぽ	WEB	微生物学の父/レーベンフックが人類で初めて微生物を発見した方法とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
23	5月9日	山陰中央新報デジタル	WEB	１０兆円基金 ４大学申請へ　地方見送り多数 格差懸念　国立大調査	政府が世界最高の研究水準を目指す大学を支援するために設けた10兆円規模の大学ファンド（基金）に関し、東京農工大学が申請する意向であることが紹介される。		
24	5月10日	しんぶん赤旗	14面	環境ホルモン汚染（下） 濃度 測定せず	東京農工大学の高田秀重教授たちの研究チームが、多摩川の上流の水に含まれる環境ホルモンのビスフェノールAの濃度が急激に上昇する原因をたどっていった結果、東京都下水道局の下水処理場が発生源である可能性が高いことが分かったと紹介される。	農学研究院	高田秀重 教授
25	5月10日	Webむろみん電子版	WEB	空気感染する？しない？新型コロナ広がる経路　換気重要、用語で混乱も	水谷哲也東京農工大教授（ウイルス学）の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
26	5月10日	EurekAlert!	WEB	New research may revise a theory of reacting flow	The research team of Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT) for the first time clearly demonstrates that the effect on the flow reverses according to the degree of change in the properties due to the reaction in a reacting flow with production of viscoelastic material, through experiments involving high-precision rheological measurements and a newly proposed theory.	生物システム応用科学府 工学研究院 グローバルイノベーション研究院	平野紗愛 さん 長津雄一郎 教授 鈴木龍汰 特任助教
27	5月10日	news wise	WEB	New research may revise a theory of reacting flow	The research team of Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT) for the first time clearly demonstrates that the effect on the flow reverses according to the degree of change in the properties due to the reaction in a reacting flow with production of viscoelastic material, through experiments involving high-precision rheological measurements and a newly proposed theory.	生物システム応用科学府 工学研究院 グローバルイノベーション研究院	平野紗愛 さん 長津雄一郎 教授 鈴木龍汰 特任助教
28	5月10日	山陽新聞	面	新型コロナ広がる経路　空気感染する？しない？	水谷哲也東京農工大教授（ウイルス学）の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
29	5月10日	岩手日報	4面	「エアロゾル」は空気感染？ 新型コロナウイルス経路 定義あいまい、換気は重要	水谷哲也東京農工大教授（ウイルス学）の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
30	5月10日	茨城新聞	4面	コロナは空気感染する？ 「エアロゾル」統一見解なし 用語で混乱、換気重要	水谷哲也東京農工大教授（ウイルス学）の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
31	5月10日	京都新聞	26面	空気感染する？しない？新型コロナ広がる経路　用語で混乱も	水谷哲也東京農工大教授（ウイルス学）の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
32	5月10日	四国新聞	17面	空気感染する？しない？ 「エアロゾル」統一見解なし	水谷哲也東京農工大教授（ウイルス学）の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
33	5月10日	秋田魁新報	面	空気感染する？しない？新型コロナ広がる経路　換気重要、用語で混乱も	水谷哲也東京農工大教授（ウイルス学）の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
34	5月10日	埼玉新聞	面	空気感染する？しない？新型コロナ広がる経路　換気重要、用語で混乱も	水谷哲也東京農工大教授（ウイルス学）の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授

No.	掲載年月日	媒体名		記事(番組)表題	記事(番組)概要	記事(番組)関係者等	
35	5月10日	愛媛新聞	面	空気感染する？しない？新型コロナ広がる経路　換気重要、用語で混乱も	水谷哲也東京農工大教授(ウイルス学)の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
36	5月10日	徳島新聞	面	空気感染する？しない？新型コロナ広がる経路　換気重要、用語で混乱も	水谷哲也東京農工大教授(ウイルス学)の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
37	5月10日	長崎新聞	面	空気感染する？しない？新型コロナ広がる経路　換気重要、用語で混乱も	水谷哲也東京農工大教授(ウイルス学)の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
38	5月10日	沖縄タイムス	面	空気感染する？しない？新型コロナ広がる経路　換気重要、用語で混乱も	水谷哲也東京農工大教授(ウイルス学)の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
39	5月10日	丹波新聞	WEB	「アイガモロボ」を実証実験　水田の雑草発生を抑制「無人で動かせるのが魅力」	東京農工大学発のベンチャー企業「有機米デザイン」が、実用化に向けて開発を進めている水田の抑草ロボット「アイガモロボ」の実証実験について紹介される。		
40	5月10日	ラブすぽ	WEB	私たちの体にはどれくらいの微生物が生きているのか？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
41	5月11日	ラブすぽ	WEB	汗にはほとんど匂いがないのに時間が経つと臭くなる理由とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
42	5月11日	AZO MATERIALS	WEB	A New Stage of Reacting Flow Research	For the first time, a research group from the Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT) has illustrated, with the help of experiments involving high-precision rheological measurements and a newly proposed theory, that the impact on the flow reverses according to the degree of change in the properties due to the reaction in a reacting flow with the formation of viscoelastic material.	生物システム応用科学府 工学研究院 グローバルイノベーション研究院	平野紗愛 さん 長津雄一郎 教授 鈴木龍汰 特任助教
43	5月11日	日刊工業新聞	21面	小金井ならでは	「獣医学科があり動物病院を備える大学が関東の国立大学では本学と東京大学などに限られている」という千葉一裕学長のコメントが紹介される。また、全国の大学で初めてとなる、二つ目の動物病院の設置を発表したと紹介される。		千葉一裕 学長
44	5月11日	Chem-Station	WEB	イミノアルキンと共役ジエンの形式的[4+1]アニュレーションによる多置換ピロール合成	第380回スポットライトリサーチへ東京農工大学大学院 工学府 応用化学専攻 物質応用化学専修 博士前期課程 (研究当時) の 栗田真之介 (くりた・しんのすけ) さんインタビューが掲載される。	工学府応用科学専攻	栗田真之介 さん
45	5月11日	NEWSポストセブン	WEB	ペットボトル、カップ麺など、食品の容器から有害物質が溶け出すリスクはあるのか	プラスチックが私たちの体にどのような影響を及ぼしているのかについて東京農工大学の高田秀重教授のインタビューが掲載される。	農学研究院	高田秀重 教授
46	5月11日	Rallys	WEB	3年ぶりの公式開催　濱田、枝廣ら期待の新人が活躍するか＜春季関東学生卓球リーグ戦見どころ＞	春季関東学生卓球リーグ戦男子5部出場校：Cブロック、春季関東学生卓球リーグ戦女子5部出場校：Aブロックとして掲載される。		
47	5月11日	日本経済新聞	WEB	東京農工大など、昆虫行動を制御する新たな仕組みを発見	東京農工大学大学院連合農学研究科博士後期課程生の西子まあや さんとグローバルイノベーション研究院の坂本卓磨 特任助教、農学研究院生物生産科学部門の天竺桂弘子 教授、カンザス州立大学のMichael R.Kanost教授、韓国全南大学校のYasuyuki Arakane教授を中心とする研究グループは、昆虫の抗酸化酵素スーパーオキシドディスムターゼ(SOD)の1つが、活性酸素(ROS)の発生を単に抑制するだけではなく、時期特異的にROS発生を調節することで、変態期の神経筋接合の再構築を完成に導き、成虫が脚を動かせるようになる新たな仕組みを発見したと紹介される。	連合農学研究科博士後期課程 グローバルイノベーション研究院 農学研究院	西子まあや さん 坂本卓磨 特任助教 天竺桂弘子 教授
48	5月11日	静岡新聞	面	交差点　周囲の安全確認 紙面に静止画，QRコードからアクセス「動画コンシェル」	東京農工大学のスマートモビリティ研究拠点が提供した映像資料の静止画が紙面掲載され，AR放映	工学研究院スマートモビリティ研究拠点	毛利宏 教授
49	5月12日	日刊工業新聞	19面	燃焼プロセス高効率化 東京農工大 灰付着9割抑える	東京農工大学大学院の堀口元規助教(研究当時)と岡田洋平准教授らは、燃料や下水汚泥などの燃焼プロセスの高効率化および安定運転に向け、燃焼灰の高温付着性を下げる技術を開発したと紹介される。	グローバルイノベーション研究院 農学研究院	堀口元規 助教 岡田洋平 准教授
50	5月12日	ラブすぽ	WEB	体をゴシゴシ洗うのは肌に悪いと言われる理由とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
51	5月12日	ねとらぼ	WEB	スキー場が閉鎖されるとチョウが生きられなくなる　東京農工大などの研究で判明 最近スキー場減っていますよね……。	スキー場が閉鎖されればされるほど、チョウが生きられなくなる環境になることが、東京農工大学や東京大学などの研究で明らかになったことが紹介される。		
52	5月13日	中部経済新聞	面	空気感染する？しない？新型コロナ広がる経路　換気重要、用語で混乱も	水谷哲也東京農工大教授(ウイルス学)の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
53	5月13日	北海道新聞	面	空気感染する？しない？新型コロナ広がる経路　換気重要、用語で混乱も	水谷哲也東京農工大教授(ウイルス学)の「状況によっては空気感染も起こり得る、感染形態にグラデーションがあると理解すればいいのではないか」とコメントが紹介される。	感染症未来疫学研究センター	水谷哲也 教授
54	5月13日	IAEA	WEB	IAEA Presents Nuclear Solutions for Plastic Pollution and Carbon Dioxide Removal at UN Forum	Hideshige Takada, Professor of Environmental Chemistry of Organic Micropollutants at Tokyo University of Agriculture and Technology, explained that nuclear technology was used to determine that marine plastic pollution began to appear in the Asian region in the 1960s and 1970s.	農学研究院	高田秀重 教授
55	5月13日	ラブすぽ	WEB	ヒト一人が持つ腸内細菌は1.5～2kg？！腸内に100兆個以上存在する細菌の種類とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院 応用生命化学部門	山形洋平 教授
56	5月14日	ラブすぽ	WEB	腸内細菌と腸、そして脳の間には強い結びつきが？！腸が「第2の脳」と呼ばれる理由とは？【微生物の話】	東京農工大学大学院農学研究院 山形洋平教授のコラム【微生物の話】が掲載される。	農学研究院	山形洋平 教授
57	5月16日	京都大学iPS細胞研究所	WEB	筋萎縮性側索硬化症(ALS)病因タンパク質TDP-43は コレステロール合成を制御する ～ALSにおける脂質代謝異常と栄養療法の分子メカニズム探索～	ALS病因タンパク質TDP-43が、コレステロール合成を制御する転写因子であるSREBP2の転写活性を通して、コレステロール合成を制御することを明らかにした研究論文に共著者として掲載される。	農学研究院	泉川桂一 特任助教
58	5月16日	文教.com	WEB	【農工大】スキー場であり続けることがチョウにとっては大切　ゲレンデの閉鎖はチョウ類相を衰退させることを発見	東京農工大学大学院農学府農学専攻の沖和人さん(修了生)、同大学院グローバルイノベーション研究院の小池伸介教授らの国際研究チームは、営業の停止に伴い、人為的なゲレンデ管理がなされなくなったスキー場跡地では、営業停止からの経過年数に伴い、観察されるチョウの種数や個体数が減少することを明らかにしたと紹介される。	農学府農学専攻 グローバルイノベーション研究院	沖和人 さん 小池伸介 教授
59	5月17日	日本経済新聞	WEB	TDKや秋田県にかほ市など連携　ロボ使い環境保全型農業	農業生産法人の権右衛門(秋田県にかほ市)やTDK、井関農機、ロボット開発の有機米デザイン(東京農工大発ベンチャー：東京都小金井市)、にかほ市の5社・団体は17日、環境保全型スマート農業の推進に向け連携協定を結んだことが紹介される。		
60	5月18日	日本経済新聞	WEB	環境保全型農業推進、秋田で連携	農業生産法人の権右衛門(秋田県にかほ市)やTDK、井関農機、ロボット開発の有機米デザイン(東京農工大発ベンチャー：東京都小金井市)、にかほ市の5社・団体は17日、環境保全型スマート農業の推進に向け連携協定を結んだことが紹介される。		
61	5月18日	日本経済新聞	WEB	スキー場、長期閉鎖でチョウ減少　東京農工大など発見	東京農工大学などの国際研究チームは、スキー場が閉鎖してゲレンデの管理が長期間なされないでいると、生息するチョウの種類や個体数が減少してしまうことを突き止めたと紹介される。		1
62	5月18日	読売新聞オンライン	WEB	仙台の山林　クマ目撃相次ぐ	小池伸介・東京農工大大学院教授の「全国的にもクマの生息地が市街地近くの山林へ拡大している。目撃情報がある場合、周辺住民はクマの行動が活発になる朝夕に1人での行動を避けるなど注意が必要。クマと遭遇する場所をなくすために河川の草を刈るのは効果的」とのコメントが紹介される。	グローバルイノベーション研究院	小池伸介 教授

No.	掲載年月日	媒体名		記事（番組）表題	記事（番組）概要	記事（番組）関係者等	
63	5月18日	読売新聞オンライン	WEB	クマに出会ったら「背中を見せずに離れて」…仙台の山林で相次ぐ目撃、看板で注意	小池伸介・東京農工大大学院教授の「全国的にもクマの生息地が市街地近くの山林へ拡大している。目撃情報がある場合、周辺住民はクマの行動が活発になる朝夕に1人での行動を避けるなど注意が必要。クマと遭遇する場所をなくすために河川の草を刈るのは効果的」とのコメントが紹介される。	グローバルイノベーション研究院	小池伸介 教授
64	5月18日	EE Times Japan	WEB	β型酸化ガリウムの事業化を加速 ノベルクリスタルテクノロジー、ロームから資金調達	ノベルクリスタルテクノロジーは、タムラ製作所や情報通信研究機構（NICT）、東京農工大学を中心メンバーとする研究チームが行ってきた酸化ガリウムの開発成果を基盤として、Ga2O3エピウエハーの開発や製造を行っていることが紹介される。		
65	5月19日	産経新聞	WEB	3年ぶりに竹まつり　高山社情報館群馬・藤岡市	6月18日の講演会「新田猫の楽しみ方」講師として東京農工大学の横山岳氏が登壇されることが紹介される。	農学研究院	横山岳 准教授
66	5月20日	MRT宮崎放送	TV	「Check！」	東京農工大学のスマートモビリティ研究拠点が提供した映像資料が放映	工学研究院スマートモビリティ研究拠点	毛利宏 教授
67	5月21日	khb	WEB	マイクロプラスチック問題に理解を　仙台で「海洋ごみセミナー」開催	東京農工大学の高田秀重教授が講演し、プラスチックが細かくなることで生殖や成長に異常をきたす添加剤が魚貝類に取り込まれ、更に海鳥や人間にも影響が出始めていることなどが紹介される。	農学研究院	高田秀重 教授
68	5月21日	日本農業新聞	WEB	虫の足を動かなくする仕組み発見	東京農工大学などの研究グループは、昆虫の体内にある酵素の働きを抑え、虫の脚を正常に動かなくする仕組みを発見したと紹介される。		
69	5月22日	BSフジ	TV	ガリレオX	「わたしたちの動物観」動物が人間を癒す 東京農工大学の甲田准教授の研究チームは動物が出てくる絵本を5,000冊以上調査し、動物を人になぞらえる「擬人化」について定量分析をおこなったことについて撮影・取材に協力している。	農学研究院	甲田菜穂子 准教授
70	5月22日	日本農業新聞	WEB	虫「移動制限」仕組み発見　酵素の働き阻害、脚動かせず　東京農工大、チョウ目に応用期待	東京農工大学などの研究グループは、昆虫の体内にある酵素の働きを抑え、虫が脚を正常に動かせなくする仕組みを発見したと紹介される。		
71	5月22日	河北新報	WEB	「マイクロプラ、人体に悪影響」 仙台で研究者講演	東京農工大の高田秀重教授（環境化学）が発生構造や解決への道筋などをテーマに講演したと紹介される。	農学研究院	高田秀重 教授
72	5月22日	朝日中高生新聞	1-2面	東京湾の底にマイクロプラスチック 海のプラごみ汚染60年代から 泥を採取し堆積を確認	東京農工大などの研究グループが調査したことが紹介される。	農学研究院	高田秀重 教授
73	5月22日	日本農業新聞	1面	虫「移動制限」仕組みを発見 酵素の働き阻害、脚動かなく 東京農工大、チヨウ目に応用期待	東京農工大学などの研究グループは、昆虫の体内にある酵素の働きを抑え、虫が脚を正常に動かせなくする仕組みを発見したと紹介される。	農学研究院	天竺桂弘子 教授
74	5月23日	日本経済新聞	WEB	「ワクワク」通じ地域の課題解決　ヤマガタデザイン 地域のチカラ　スタートアップ	東京農工大学と共同開発し、22年は33都府県で実証実験することが紹介される。		
75	5月23日	日本経済新聞	WEB	東京農工大、尿カテーテルを使って犬正常膀胱オルガノイドの作出に成功	国立大学法人東京農工大学大学院農学研究院のモハメド・エルバダウィー訪問研究員、同大学農学部共同獣医学科の藤坂航大氏（当時 学部 6年）、同大学大学院農学府共同獣医学専攻の山本晴氏(博士課程2 年)、同大学大学院農学研究院の佐々木一昭准教授、臼井達哉特任講師らは、尿カテーテルを用いて回収した正常犬の尿中に含まれる細胞から3次元(3D)オルガノイド培養を行い、膀胱粘膜組織の特徴を再現可能な犬正常膀胱オルガノイドを作出することに成功したことが紹介される。	農学研究院 農学部共同獣医学科 農学府共同獣医学専攻 農学研究院 農学研究院	モハメド・エルバダウィー 訪問研究員 藤坂航大 さん 山本晴 さん 佐々木一昭 准教授 臼井達哉 特任講師
76	5月23日	SAKURA internet	WEB	粗利率50%！驚異の数値を叩き出す、旬八青果店の八百屋DX	東京農工大学卒業後、食農ビジネスを起業。株式会社アグリゲートを立ち上げ、東京都心部を中心に旬八青果店を展開している左今 克憲さんのインタビューが掲載される。	卒業生	左今克憲 さん
77	5月24日	DreamNews	WEB	【藻類による炭酸ガスの吸収・利用】2022年5月25日発刊！《カーボンニュートラル関連特許レポート》	大学・研究機関として東京農工大学が記載される。		
78	5月24日	日本経済新聞	WEB	(地域のチカラ スタートアップ) ヤマガタデザイン（山形県鶴岡市） 観光や農業にワクワク感 心つかみ、課題解決	東京農工大学と共同開発し、22年は33都府県で実証実験することが紹介される。		
79	5月25日	毎日新聞	18面	だいあろ～ぐ 東京彩人記　動物守る心を育てる　井の頭自然文化園園長　金子美香子さん（57）　／東京	東京農工大農学部獣医学科を卒業した金子美香子さん（現 井之頭自然文化園園長）の「動物守る心を育てる」についてのインタビューが掲載される。	卒業生	金子美香子 さん
80	5月25日	朝日新聞DIGITAL	WEB	有機米の田んぼに浮かぶアイガモロボ　水面ぐるぐる、まるで掃除ロボ	アイガモロボは、同市と開発を担った東京農工大発のベンチャー企業「有機米デザイン」（東京）、有機農業に取り組む地元農家らが連携して進める、「環境保全型スマート農業」で導入されると紹介される。		
81	5月26日	スポニチ	WEB	【日本ダービー】NF天栄・木実谷場長　皐月賞1、2着馬は充実の調整基地で心身ともリラックスを明かす	東京農工大では馬術部に所属し、卒業後ノーザンファームに入社した金子美香子さん（現 ノーザンファーム天栄場長）の日本ダービーに向けてのインタビューが掲載される。	卒業生	木実谷雄太 さん
82	5月26日	tokyo chips	WEB	全身の健康や回復に必要なコラーゲンの最新トレンド、選び方＆摂り方を次世代コラーゲン・カラダラボが伝授！	で東京農工大学名誉教授の藤本大三郎先生は、コラーゲン摂取のポイントについてインタビューが掲載される。		藤本大三郎 名誉教授
83	5月27日	タウンニュース	WEB	愛川町長選 新人 今鉾氏が出馬表明 「町民の生命財産守る」	今鉾君雄氏の経歴として東京農工大学を卒業と紹介される。	卒業生	今鉾君雄氏 さん
84	5月27日	静岡新聞	WEB	社説（５月２７日）大学ファンド　底上げは必要ないのか	認定申請の意向について、共同通信が国立大学を対象に聞いたところ、４月下旬までの回答で申請意向は東北、東京農工、名古屋、大阪の４大学と紹介される。		
85	5月27日	朝日新聞デジタル	WEB	10兆円ファンドの「稼げる大学」に5大学検討　選択と集中へ不安も	東京農工大学も「申請する方向で検討中」とし、理由として「自律的に成長する世界第一線の研究大学を目指している」と紹介される。		
86	5月27日	朝日新聞デジタル	WEB	「輝く大学へまたとない機会」「研究力低下」 10兆円ファンド賛否	「応募」の方向で検討中とした東京農工大学は異色の存在だと紹介される。		
87	5月28日	朝日新聞デジタル	WEB	10兆円ファンドに申請しますか？　43大学から聞こえる期待と不満	朝日新聞社が国公私立大学にアンケートを行た回答として東京農工大学が10兆円ファンドに申請する理由や10兆円ファンドに対する意見などが紹介される。		
88	5月29日	日本テレビ	TV	ザ！鉄腕！DASH!!	「新宿DASH」の企画として、ミツバチ・ブルーベリーについて農学研究院 自然環境保全学部門 金子弥生准教授が都内に生息する野生動物の撮影・取材に協力している。	農学研究院 自然環境保全学部門 農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター	金子弥生 准教授 伴琢也 准教授 乃万了 技術専門職員
89	5月29日	THE JAPAN TIMES	WEB	Four Japanese universities set to apply for ¥10 trillion government fund	Tohoku University, Tokyo University of Agriculture and Technology, Nagoya University and Osaka University intend to apply for the funds, established as part of the government's efforts to promote science and technology in Japan.		
90	5月30日	日刊工業新聞	3面	粉体工業技術協会 会長に牧野氏 電中研研究アドバイザー	副会長に角井寿雄氏（67、東京農工大学監事）が就任したことが紹介される。		角井寿雄 監事
91	5月30日	NumberWeb	WEB	“最強のダービー2着馬”は？ 成績は58戦5勝、それでも愛されたあの馬も「最強に“幸せな”2着馬かもね」《今年はイクイノックス》	ダービー2着馬のスマイルジャックが現在は「咲風（えみかぜ）」と改名し、小桧山の母校・東京農工大学の馬術部で活躍していることが紹介される。		
92	5月30日	RNB：南海放送	TV	養蚕から新産業を「せとうちシルクファクトリー」開所	ユナイテッドシルクは、東京農工大学と共同で、抗がん剤やワクチンの原料としての活用も目指していることが紹介される。		
93	5月31日	KNB：北日本放送	TV	アイガモロボとコメ作り　中央農業高が導入	GPSで自動で動くアイガモロボットは東京農工大学と共同で研究を進める東京のベンチャー企業が開発し、中央農業高校に無償で提供したと紹介される。		
94	5月31日	日本経済新聞	WEB	九大と東京農工大、成膜するだけで正負の巨大表面電位を示す分子を開発	田中 正樹 博士（現 東京農工大学 助教）、Morgan Auffray 博士（当時 九州大学）、中野谷 一 准教授（九州大学）、安達 千波矢 主幹教授（九州大学）の研究グループは、GSPの大きさだけでなく、その極性をも任意に制御された有機自発配向分極薄膜の作製に成功したと紹介される。	工学研究院	田中正樹 助教
95	5月31日	日刊工業新聞	26面	表面電位持つ分子膜開発 有機分子配向　振動発電を効率化 東京農工大・九大など	東京農工大学の田中正樹助教と九州大学の中野谷一准教授らは、有機分子が配列して大きな表面電位を持つ分子膜を開発したと紹介される。	工学研究院	田中正樹 助教
96	5月31日	朝日新聞	1面	大学ファンド 浮かぶ懸念 国の支援新制度 応募前向き5校	「10兆円大学ファンド」アンケートの主な回答として東京農工大学の回答が紹介される。		

No.	掲載年月日	媒体名		記事(番組)表題	記事(番組)概要	記事(番組)関係者等	
97	5月31日	朝日新聞	WEB	大学ファンド、浮かぶ懸念　国の支援新制度、応募前向き5校　「要件難しい」見送りも　朝日新聞社調査	東京農工大学が「申請する方向で検討中」と回答したことが紹介される。		
98	5月31日	The Asahi Shimbun	WEB	Asahi survey: Most universities won't apply for government fund	Osaka University and the Tokyo University of Agriculture and Technology said they were considering moving toward submitting applications.		
99	5月31日	日刊工業新聞	WEB	有機分子配向で表面電位 東京農工大・九大など分子膜開発	東京農工大学の田中正樹助教と九州大学の中野谷一准教授らは、有機分子が配向して大きな表面電位を持つ分子膜を開発したと紹介される。	工学研究院	田中正樹 助教
100	5月31日	マイナビニュース	WEB	九大など、巨大表面電位の大きさと極性を制御した有機分子薄膜の作製に成功	九州大学(九大)と東京農工大学(農工大)は5月31日、分子デザインの観点から、巨大な表面電位(GSP)の大きさに加え、その極性も任意に制御した有機自発配向分極薄膜の作製に成功したことを発表したと紹介される。	工学研究院	田中正樹 助教
101	5月31日	BUSINESS DAY	WEB	IAEA unveils nuclear technology solution to plastic pollution, carbon dioxide removal	Hideshige Takada, Professor of Environmental Chemistry of Organic Micropollutants at Tokyo University of Agriculture and Technology, explained that nuclear technology was used to determine that marine plastic pollution began to appear in the Asian region in the 1960s and 1970s.	農学研究院	高田秀重 教授